

---

# タイムマシーンに乗って

レン太郎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

タイムマシーンに乗って

### 【Nコード】

N0767L

### 【作者名】

レン太郎

### 【あらすじ】

ついに私は、タイムマシーンを開発した。すべてはもう一度、人生をやり直すため。

突然だが、今から私が開発した、タイムマシンを紹介しよう。

高さ1メートル、横幅50センチの白くて四角いフォルム。上下にある扉は、手動での開閉が自由自在。まるで、食物を保存したり、氷を製造することが出来そうではないか。

そう、これは皆さまご存知の、冷蔵庫を改造したタイムマシンである。冷凍室があった上の扉を開くと、タッチパネル式の液晶モニターが登場する。これに、行きたい年月日と場所を入力できるようになっていいる。そして、冷蔵庫があった下の扉を開くと、人がひとり入れるスペースと、スタートボタンがある。先の説明通りに、行きたい時代を入力し、このボタンを押せば、自在にタイムトラベルが可能というわけだ。

まだ実験すらしてないが、私の持論が正しければ、まず成功は間違いないだろう。

私は別段、天才でもなければ、有能な科学者でもない。安い給料でこき使われてる、普通のサラリーマンだ。では、こんな私がなぜ、タイムマシンを作ろうと思ったのか。それには、マリアナ海溝よりも深い事情がある。

実は私は、今の妻と結婚したことを後悔しているのだ。

聞くも涙、語るも涙な話だが、まあ聞いてほしい。私の妻は、とんでもないグータラ妻なのだ。食事の支度、洗濯、掃除はもちろんしない。ずっと、お気に入りのソファに寝転がり、テレビを見ながら煎餅を食う。決して、その場所から動かない。というか、動いたのを見たことがない。

まさにこれは「動かざること妻の如し」。風林火山ならぬ、風林火妻と呼ぶにふさわしい光景だ。

結婚した当初の妻は美しかった。あれから二十五年。今となって

は、その面影は微塵も感じさせないほどの豹変ぶりである。結婚当初の妻を動物に例えるならば、機敏な動きでぴょんぴょんと跳びはねる、可愛いウサギちゃん。それが今では、まったく動かない、太ったナマケモノちゃんになってしまったのだ。

妻と出会ったのは、私が大学生の頃。告白してきたのは妻のほうからだった。しかし、その当時、私には付き合っている彼女がいた。

私は、悪いと思いつつも、妻と彼女を両天秤にかけた。彼女は妻に比べたら、見劣りはしたが、私に尽くしてくれるいい女だった。だが、私も若かったのだろう。彼女に別れを告げ、見た目がいい妻のほうを選んでしまったのだ。

そして、大学を卒業し、就職したところで、私と妻は結婚し、一人の息子を授かった。

それからだ、妻が変わってしまったのは。

妻は、子供を産んだ途端に太り出した。まるで、浮輪を膨らませるポンプでもついているかのように、ぶくぶくぶくぶく太る一方だった。太るだけならまだしも、それに準じて、動くことすら面倒なのか知らないが、ソファアの上からピクリとも動かなくなってしまった。

当然のように、私は会社に勤めながらも、家事全般をこなした。息子の世話をしたのも、妻ではない。私だ。私が育てたのだ。

そしてようやく、息子も独立してくれたので、ここでふと、怒涛のように駆け巡った結婚生活を振り返って、私はこう思う。

「大学の頃へ戻って、やり直したい」と。

そう、あの時は、やはり彼女と別れるべきではなかったのだ。彼女と結婚していれば、私はこんなに苦勞することは、なかったはず。

その思いが、私をタイムマシンの制作へと駆り立てた。もちろん、過去の自分に会い、彼女と別れたら不幸になるとアドバイスするため。

では今から、私がタイムマシンをどのように制作したかをお教えしよう。

作り方はいたって簡単。ネットで「タイムマシンの作り方」を入力し、検索。するとどうだろう、次から次へと、タイムマシン制作に関する情報が、溢れてるではないか。

私はその中から、有力だと思われる情報だけをピックアップし、冷蔵庫をベースとした、オリジナルのタイムマシンを作ったというわけだ。我ながら、斬新なアイデアだと思う。諸君も興味があったら、是非やってみてはいかがだろうか。

私は、タッチパネルに、妻が告白してきた年月日を入力した。場所は、私が通っていた大学のキャンパスにしよう。

そして、運命の扉を開き、いざ乗り込む。少々狭いようだが、身体を極限まで折り畳んで、ようやく扉を閉めることに成功した。

さて、あとはこのボタンを押すだけだ。

さらば、今の妻よ。そしてこんにちは、新しい妻よ。きっと、帰ってきたら、別れたはずの彼女が妻になってるに違いない。

さあ、運命を分けたあの時代へと私をいざない、本来掴むべきだった幸せを、見事に勝ち取るのだ。

そう思い、ボタンを押した直後、タイムマシンは大爆発を起こした。

(了)

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0767/>

---

タイムマシーンに乗って

2010年10月8日13時08分発行